

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100337		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム せんだんの里		
所在地	高知県香南市野市町中ノ村770番地1		
自己評価作成日	平成30年11月9日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周辺には、保育園、幼稚園、小学校があり、運動会やお遊戯会などの行事への利用者参加が恒例となっており、子供たちの元気な声が利用者を和ませてくれている。地域の行事へも積極的に参加して地域住民との交流も継続しており、気軽に挨拶や会話ができている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;ljgwsvocd=3972100337-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;ljgwsvocd=3972100337-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成31年1月25日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地にあり、小学校、幼稚園、保育園が隣接している。運動会や、卒業式などに利用者が招待されたり、事業所行事に保育園児等を招待したりする交流が続いている。地域住民にも、避難訓練の協力を依頼をしたり散歩時の挨拶や会話を交わしたりしているほか、地域行事には積極的に参加している。  
ケアプラン作成時の家族参加を事業所課題とし、事業所、本人、家族の関係が深まるよう、カンファレンスへの参加を依頼している。家族の希望を聞き、日程調整をしながら実現に向けて前向きに取り組んでいる。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: すいせん

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛と笑顔と思いやり」という基本理念のもと、管理者、職員は、理念に沿ったケアが実践できるよう、日々のミーティングで話し合っている。	「愛と笑顔と思いやり」の理念を職員会等で定期的に確認し、共有して、笑顔で住みやすくその人らしく過ごせる環境が提供できるよう、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には積極的に参加している。また、定期的に近隣の保育園や幼稚園、小学校とも交流している。	近隣の小学校、幼稚園、保育所と定期的に交流したり、地域の夏祭りや、敬老会に参加したり、散歩の際には利用者も挨拶や会話をし、交流ができています。野菜などのおすそ分けもある。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議の際に、日々の利用者の対応について説明をしている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や検討事項については、日々のミーティングや職員会で報告して検討している。できるだけ実行できるように取り組みを行い、次の運営推進会議で経過報告をしている。	会議には家族代表、民生委員、市担当者、消防署職員の参加があり、事業所からの報告と質疑応答のほか、消防署職員からは災害等訓練のアドバイス、民生委員から地域の情報提供等があり、それぞれ出された意見はサービスに活かすようにしている。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告はもちろんのこと、日々のケアでの困難事例等について市担当者との連携を図り、相談しやすい関係を築くように努めている。	運営推進会議参加のほか、集団指導、運営に関するアドバイスをいただいている。入所の調整などでも市担当者との連携を図り、協力関係が築けている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践について、常に職員全員が意識するようにしている。また、職員の教育も事業所内で定期的に行うと共に、法人内外の研修へも参加して、ケアの統一を図っている。	身体拘束委員会を事業所内に設け、研修に参加したり、勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。チェックシートを作り、自己記入して言葉の拘束なども含めて正しく理解し、職員全員で検討しながら適正化を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について随時話し合い、虐待防止に努めている。管理者は職員が利用者に関わる様子にも気を配り、働く側のストレスについて見逃すことのないよう、話しをする機会を持っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等が必要な利用者について管理者が市に出向き、対応する体制をとっている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、入所契約書等をもとに、家族が不安を持つことのないよう、不明な点はないかを確認しながら説明している。面接時や、入所前にも、できる限り説明するよう努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の関わりの中で、個々の意向を汲み取るようにしている。家族については、来訪時などに意向を聞き、運営に反映させている。	利用者からは日々の生活の中から思いや意向を把握し、職員間で話し合っケアに反映するようにしている。家族からは面会時や行事に参加の時に意向など聞くようにしている。個々の要望はケアプランに入れたり、行事の開催時期などの意見もあり、意向に沿うよう努めている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、日々のミーティングで職員の意見を聞くようにしている。また、業務中にも意見を聞き、運営に反映させている。	常に現場の声を聞き、運営に反映するようにしている。定期的に個別面談をしたり、職員の気づきなど、その都度話し合いながら反映している。勤務についても希望を聞き、勤務表を作成している。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が無理なく業務をこなせるよう、勤務や業務実体の把握に努めている。また、職員の希望を聞き、できるだけ勤務表に反映している。勉強会や研修等に職員が参加できる体制を構築し、向上心を持って働けるようサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内外の研修に参加し、個々の職員が得た知識は職員会等を通して情報を共有して、事業所全体のスキルアップに努めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人内外の研修に参加し、同業者と交流が図れるように努めている。また、交流の際には情報の交換を行うことで、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時や入所前には事前に家族や担当職員から情報を得た上で本人と面接し、困っていることが無いか確認して、本人が安心できるように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時に十分な時間を取って入所に至るまでの経緯を聞き、家族の困っていること、不安に思っていること等を、家族の立場になって話を聞き、良い関係作りに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に訪問したりして、面接時には念入りに意見や要望を聞き取っており、必要な場合には他のサービス利用の連絡調整を行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人との関わりを大切にし、共に暮らす仲間として関係を築き、いつも和むことのできる家族のように、安心して暮らせる空間が提供できるよう、職員会や申し送り時には話し合いを行って、意識付けしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の来訪時や家族会の際には、利用者の様子や日頃の職員の思いについて伝え、協力してもらっている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の希望に合わせて友人、知人が面会に来てもらえるよう、家族や友人、知人に協力してもらっている。入所時には、生活歴や人間関係等の把握に努めている。</p>	<p>利用者同士が馴染みの関係であったり、地域の行事などに参加することで知り合いに会ったり、友人の面会もある。外出の際には、本人が普通だった道だというコースを回って帰って来たりして、馴染みの場所などとの関係が続くよう支援している。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションや行事に参加してもらい、活動を通じて利用者同士が関わりを持つことができている。利用者同士の関係性を考慮して配席し、トラブル防止にも努めている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用者が他の施設に移った場合には、管理者や職員ができる限り訪問するよう努めている。また、長期入院等による退所では、その後の経過により事業所の紹介や支援等を行っている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、毎日の関わりの中で利用者本人の思いを把握するように努めている。家族の来訪時にも話を聞き、利用者本人の意向の把握に努めている。利用者の日々の表情や振る舞いを観察し、小さな変化にも対応できるよう努めている。</p>	<p>入所時の家族や関係者からの情報をもとに、日々の生活の中での会話や行動から、利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。変化があれば記録し、職員間で話し合っケアプランを見直したりしながら、本人の意向に沿えるように努めている。</p>	
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前や事前に本人、家族から生活歴や生活環境などについて綿密な聞き取りを行っている。また、入所後の日々の暮らしの中でも、利用者の発言や発語に耳を傾け、情報収集に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で利用者の状態を把握し、心身状態の変化をみている。職員間で共通の認識をもち、支援方法を検討しながら介護するよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を確認し、他職種の意見も取り入れながら、ケアプランを作成している。	家族からは、面会時や電話で意見、意向を聞き、利用者からは日常の生活の中での会話などで聞き取り、職員間で話し合い、作成担当者が作成している。3ヶ月毎に見直しを行い、変化があった場合はその都度見直しをしている。	年に1回でもケアプラン策定のカンファレンスに家族の参加が得られ、職員の意見や家族の率直な意見が聞かれる体制をつくって、本人、家族、職員の関係が築かれていくことを期待したい。
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や日誌記録等にしっかりと記録を残し、職員間の情報共有を図っている。必要に応じてケアプランの見直しをしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のその時々状況に応じて、ニーズに対応している。その人がその人らしい生活ができるようケアプランを見直すほか、家族が安心して仕事や生活ができるように努めている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力を得て、定期的に防災訓練を実地したり、地域住民が行事に協力してくれることもある。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療や、病状に応じた指示のもとに他の医療機関への受診も行い、適切な医療が受けられるよう努めている。	希望で利用者全員が協力医を主治医とし、月2回の訪問診療を受けている。専門医受診では家族が付き添い、家族の都合がつかない場合は職員が対応している。緊急時等の往診や受診も可能で、適切な対応ができています。受診結果は記録して、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており、日々の健康管理や体調不良時の報告を看護師に行い、随時連絡と相談を行っている。定期的に看護師の訪問を受け、助言指導を得ている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には日頃の対応状況や様子を情報提供し、入院中は職員が様子を見に行き、回復状況の把握に努めている。また、家族とも連絡を取り合って早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針があり、看取り介護に取り組む体制ができています。家族や主治医、看護師等との連携を図り、住み慣れた環境での終末が迎えられよう努めている。	契約時に看取りの指針を説明し、重度化した場合には、再度家族の希望を聞き、主治医、関係者等で話し合い、終末期が迎えられ体制が整っている。数ヶ月前にも看取り事例があり、家族、医療関係者、職員で連携して取り組んでいる。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救急救命講習を受講するよう努めている。また、職員会でも緊急時の対応等の徹底を図っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加した避難訓練を行っている。避難場所についても地域の協力を得ている。	消防署立会いで年1回、自主訓練を年3回、火災や地震、夜間などを想定して訓練を行っている。地域住民に協力を依頼し、避難場所に小学校の校庭を借りるなどの協力を得ている。設備品の点検は年2回行い、3日分の非常食、飲料水を確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は認知症についての勉強会や研修に参加し、専門的な知識を深めることで、一人ひとりが臨機応変に対応できる能力を身につけて実践している。	職員は、研修会に参加したり、勉強会を行って人格を尊重した支援を行っている。排泄時にはさりげない声掛けで羞恥心を傷つけないように気を付けている。外部では利用者のプライバシーについて話さないよう、徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを引き出せるように、開かれた質問での対応を行い、意向に沿えるよう努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定に入っていない利用者でも、希望があれば入浴や外出等可能な範囲での対応を行っており、利用者のペースで生活できるよう支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容の利用を行っており、意向に沿う支援を行っている。衣服も利用者本人のものを着用し、希望があるときには更衣行っで対応している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力を生かし、配膳や片付け等可能な活動を一緒に行いながら、楽しい食事時間を共有している。	母体法人の管理栄養士の献立で、食材も手配している。食材を切ったり、片付け等、できることは一緒にしてもらっている。行事食や、一人ひとりの嗜好品も取り入れ、職員も献立の説明をしながら楽しく食事をしている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立でバランスの取れた食事を提供しており、嗜好品も取り入れている。水分摂取もこまめに行い、必要量を無理なく摂取できるよう努めている。摂取量の記録を行い、状況に応じて食形態を検討している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけで口腔ケアができる利用者でも、口腔内の確認を行っている。自分では難しい利用者には介助して、口腔ケアができています。義歯消毒も行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間誘導や声かけを行い、失禁回数が減り、トイレでの排泄が可能となるように努めている。また、排泄用品の使い分けをして、自立に向けた取り組みも行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、個々に応じて時間誘導し、トイレでの排泄を促している。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいるが、失禁が少なくなり、布パンツのみで自立している利用者も数名いる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取はもちろん、食事の工夫や体を動かすことで、自然排便ができるように取り組んでいる。毎日の排便チェックを行い、必要に応じ緩下剤を使用し、便秘の解消を図っている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日でも入浴できる体制を取っている。日中は、時間帯を問わず希望に応じて入浴できるように努めている。	本人の希望に沿った時間帯でいつでも入浴支援ができる体制を整えているが、利用者の多くは週2回の入浴となっている。拒否する利用者は、日や時間帯、介助者を変更したりして対応している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操やレクリエーションへの参加により日中の活動量を確保することで、夜間の良眠ができるように支援している。体力的に弱っている利用者には静養時間を設け、夜間も睡眠が取れている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の内服内容の一覧を作成し、服薬介助を行う際はマニュアルに沿って確認を行いながら、服薬介助をしている。臨時薬等の申し送りも徹底している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理や食器洗い等、可能な活動を促し、役割を持ってもらうことで張り合いのある日常生活が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外気浴や散歩等での支援を行い、できるだけ本人の意向に沿えるように努めている。また、家族にも協力してもらい、外出や気分転換の機会を設けている。	家族の協力も得ながら季節の花見、小学校の運動会、芋ほり、焼き芋会、敬老会など、季節に応じた外出や散歩などを日課とし、買い物などでは本人の希望に沿った支援ができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な利用者でも、希望があれば付き添いをして買い物の支援をしている。また、家族にも依頼し、購入してもらっている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば連絡が取れるよう体制は整えている。手紙等は利用者へ手渡している。また、家族にできるだけ面会を依頼している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温に注意し、温度管理をしている。日中は自然光で自然な雰囲気を感じられるよう工夫している。食事も季節の食材を工夫して提供するなど、配慮している。	食堂兼居間は日当たりも良く、暖かく、ソファが置かれ、テーブルにはそれぞれの名前が貼られて、決まった席で食事をしたり、テレビを見たり、会話を楽しんだりして、ゆっくりと過ごしている。廊下の壁には利用者の塗り絵、切り絵等が貼られ、居心地の良い空間となっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、寛げる場所の提供をしている。気の合う利用者同士が指定席で話しをし、楽しく過ごしている。新聞を読んだり、テレビを視聴したり、一人になれる時間も持てている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、家族の写真等を置いたり、音楽が好きな利用者はラジカセを置いており、それぞれが居心地よく過ごしている。	使い慣れたタンス、机、椅子等が置かれた居室には、家族、友人の写真、カレンダーが貼られたり、好みの置物を置いたりして、それぞれが居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には邪魔になるものは置かず、十分な通路の確保に努めることができている。手すりの設置や段差のない環境設定に努め、安全対策を行っている。場所が分からない利用者には付き添い、できることを活かしている。		

ユニット名:

すいせん

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:ひばり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛と笑顔と思いやり」という基本理念のもと、管理者、職員は、理念に沿ったケアが実践できるよう、日々のミーティングで話し合っている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には積極的に参加している。また、定期的に近隣の保育園や幼稚園、小学校とも交流している。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議の際に、日々の利用者の対応について説明をしている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や検討事項については、日々のミーティングや職員会で報告して検討している。できるだけ実行できるように取り組みを行い、次の運営推進会議で経過報告をしている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告はもちろんのこと、日々のケアでの困難事例等について市担当者との連携を図り、相談しやすい関係を築くように努めている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践について、常に職員全員が意識するようにしている。また、職員の教育も事業所内で定期的に行うと共に、法人内外の研修へも参加して、ケアの統一を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について随時話し合い、虐待防止に努めている。管理者は職員が利用者と関わる様子にも気を配り、働く側のストレスについて見逃すことのないよう、話しをする機会を持っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等が必要な利用者について管理者が市に出向き、対応する体制をとっている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、入所契約書等をもとに、家族が不安を持つことのないよう、不明な点はないかを確認しながら説明している。面接時や、入所前にも、できる限り説明するよう努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の関わりの中で、個々の意向を汲み取るようにしている。家族については、来訪時などに意向を聞き、運営に反映させている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、日々のミーティングで職員の意見を聞くようにしている。また、業務中にも意見を聞き、運営に反映させている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が無理なく業務をこなせるよう、勤務や業務実体の把握に努めている。また、職員の希望を聞き、できるだけ勤務表に反映している。勉強会や研修等に職員が参加できる体制を構築し、向上心を持って働けるようサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内外の研修に参加し、個々の職員が得た知識は職員会等を通して情報を共有して、事業所全体のスキルアップに努めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人内外の研修に参加し、同業者と交流が図れるように努めている。また、交流の際には情報の交換を行うことで、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時や入所前には事前に家族や担当職員から情報を得た上で本人と面接し、困っていることが無いか確認して、本人が安心できるように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時に十分な時間を取って入所に至るまでの経緯を聞き、家族の困っていること、不安に思っていること等を、家族の立場になって話を聞き、良い関係作りに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に訪問したりして、面接時には念入りに意見や要望を聞き取っており、必要な場合には他のサービス利用の連絡調整を行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人との関わりを大切にし、共に暮らす仲間として関係を築き、いつも和むことのできる家族のように、安心して暮らせる空間が提供できるよう、職員会や申し送り時には話し合いを行って、意識付けしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の来訪時や家族会の際には、利用者の様子や日頃の職員の思いについて伝え、協力してもらっている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の希望に合わせて友人、知人が面会に来てもらえるよう、家族や友人、知人に協力してもらっている。入所時には、生活歴や人間関係等の把握に努めている。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションや行事に参加してもらい、活動を通じて利用者同士が関わりを持つことができている。利用者同士の関係性を考慮して配席し、トラブル防止にも努めている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用者が他の施設に移った場合には、管理者や職員ができる限り訪問するよう努めている。また、長期入院等による退所では、その後の経過により事業所の紹介や支援等を行っている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、毎日の関わりの中で利用者本人の思いを把握するように努めている。家族の来訪時にも話を聞き、利用者本人の意向の把握に努めている。利用者の日々の表情や振る舞いを観察し、小さな変化にも対応できるよう努めている。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前や事前に本人、家族から生活歴や生活環境などについて綿密な聞き取りを行っている。また、入所後の日々の暮らしの中でも、利用者の発言や発語に耳を傾け、情報収集に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で利用者の状態を把握し、心身状態の変化をみている。職員間で共通の認識をもち、支援方法を検討しながら介護するよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を確認し、他職種の意見も取り入れながら、ケアプランを作成している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や日誌記録等にしっかりと記録を残し、職員間の情報共有を図っている。必要に応じてケアプランの見直しをしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のその時々状況に応じて、ニーズに対応している。その人がその人らしい生活ができるようケアプランを見直すほか、家族が安心して仕事や生活ができるように努めている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力を得て、定期的に防災訓練を実地したり、地域住民が行事に協力してくれることもある。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療や、病状に応じた指示のもとに他の医療機関への受診も行い、適切な医療が受けられるよう努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており、日々の健康管理や体調不良時の報告を看護師に行い、随時連絡と相談を行っている。定期的に看護師の訪問を受け、助言指導を得ている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には日頃の対応状況や様子を情報提供し、入院中は職員が様子を見に行き、回復状況の把握に努めている。また、家族とも連絡を取り合って早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針があり、看取り介護に取り組む体制ができています。家族や主治医、看護師等との連携を図り、住み慣れた環境での終末が迎えられるよう努めている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救急救命講習を受講するよう努めている。また、職員会でも緊急時の対応等の徹底を図っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加した避難訓練を行っている。避難場所についても地域の協力を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は認知症についての勉強会や研修に参加し、専門的な知識を深めることで、一人ひとりが臨機応変に対応できる能力を身につけて実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを引き出せるように、開かれた質問での対応を行い、意向に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定に入っていない利用者でも、希望があれば入浴や外出等可能な範囲での対応を行っており、利用者のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容の利用を行っており、意向に沿う支援を行っている。衣服も利用者本人のものを着用し、希望があるときには更衣行っで対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力を生かし、配膳や片付け等可能な活動を一緒に行いながら、楽しい食事時間を共有している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立でバランスの取れた食事を提供しており、嗜好品も取り入れている。水分摂取もこまめに行い、必要量を無理なく摂取できるよう努めている。摂取量の記録を行い、状況に応じて食形態を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけで口腔ケアができる利用者でも、口腔内の確認を行っている。自分では難しい利用者には介助して、口腔ケアができています。義歯消毒も行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間誘導や声かけを行い、失禁回数が減り、トイレでの排泄が可能となるように努めている。また、排泄用品の使い分けをして、自立に向けた取り組みも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取はもちろん、食事の工夫や体を動かすことで、自然排便ができるように取り組んでいる。毎日の排便チェックを行い、必要に応じ緩下剤を使用し、便秘の解消を図っている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日でも入浴できる体制を取っている。日中は、時間帯を問わず希望に応じて入浴できるように努めている。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操やレクリエーションへの参加により日中の活動量を確保することで、夜間の良眠ができるように支援している。体力的に弱っている利用者には静養時間を設け、夜間も睡眠が取れている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の内服内容の一覧を作成し、服薬介助を行う際はマニュアルに沿って確認を行いながら、服薬介助をしている。臨時薬等の申し送りも徹底している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理や食器洗い等、可能な活動を促し、役割を持ってもらうことで張り合いのある日常生活が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外気浴や散歩等での支援を行い、できるだけ本人の意向に沿えるように努めている。また、家族にも協力してもらい、外出や気分転換の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な利用者でも、希望があれば付き添いをして買い物の支援をしている。また、家族にも依頼し、購入してもらっている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば連絡が取れるよう体制は整えている。手紙等は利用者へ手渡している。また、家族にできるだけ面会を依頼している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温に注意し、温度管理をしている。日中は自然光で自然な雰囲気を感じられるよう工夫している。食事も季節の食材を工夫して提供するなど、配慮している。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、寛げる場所の提供をしている。気の合う利用者同士が指定席で話しをし、楽しく過ごしている。新聞を読んだり、テレビを視聴したり、一人になれる時間も持てている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、家族の写真等を置いたり、音楽が好きな利用者はラジカセを置いており、それぞれが居心地よく過ごしている。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には邪魔になるものは置かず、十分な通路の確保に努めることができている。手すりの設置や段差のない環境設定に努め、安全対策を行っている。場所が分からない利用者には付き添い、できることを活かしている。		

ユニット名:

ひばり

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				